

研究評価委員会分科会の各委員からの所見について(中間評価)

課題名「既存建築物の有効活用に関する研究開発 - 次世代に対応した室内空間拡大技術の開発 - 」

1. 主な所見

- ・ 所見
- ・ 既存建築物の有効活用技術の研究開発は、今後避けて通れない問題なので、精力的に進めていただきたい。
- ・ 国の研究機関が進めているものであるから、是非、実際に住人のいる集合住宅を対象に、実施設計、施工を行なって欲しい。
- ・ 所見
- ・ 耐震補強を含むリニューアル提案があるととっても良いと思われます。
- ・ 所見
- ・ 建研の研究には、向かなくなりつつあるように思われる。多くの阻害要因は、構造ではなく、法規制によるものであることもわかってきた。法規制の緩和に関しては研究になるが、構造に関しては、個々の問題が多い。
- ・ 集合住宅の社会的ストックは、その大部分が民間の所有であり、上下・左右の住戸を入手できる事例は限定されている。本来なら受益者を中心とした研究組織が結成されるべきである。
- ・ 所見
- ・ 主にオフィスから集合住宅へのコンバージョンに関しては、引き合いは多いものの実施に至らない場合が多い。その原因の多くは、集合住宅としての居住性(特に遮音性能\*)の確保が困難なこと、法規制の問題がからむこと等である。

2. 主な所見に対する回答

- ・ 所見
- ・ 既存建築物の活用については、今後、社会的ニーズの高まる問題であるとの認識を持って研究を進めておりますので、実用的な成果が挙げられるように努めて参ります。
- ・ 最終成果の一つとして、リニューアルの実施例を示したいと考えておりますが、実際の物件をどのように手当するかが大きな問題です。出来るだけ努力しております。
- ・ 所見
- ・ リニューアル建物への耐震補強技術の適用に関する研究(高靱性・超高強度材料を用いた補強方法など)も、課題の一つとして行っていますので、成果としてまとめていく予定です。
- ・ 所見
- ・ 中間報告では、構造分野における研究の進捗状況について説明しています。既存建築物の有効活用に関しては、構造分野のみならず材料(材料の劣化評価・補修)生産(既存耐震要素の撤去技術)計画(ライフサイクルコスト、住戸計画)法規などとの連携が要求されるものであるとの認識の下に、それぞれの研究グループで同時並行的に研究を実施しております(グループ間の調整等は、プロジェクトチームを組織して行っている)。
- ・ リニューアルに関して、一般解を導き出すのは難しいと考えており、本課題では要素技術の開発、モデル建物に対するケーススタディを実施しているところです。ユーザーニーズ等については、他の研究グループで検討を進めています。
- ・ 所見
- ・ 居住性能等に関する問題も、重要な課題であることを念頭に置いて研究を進めて参ります。